

平成 20 年三重県沿岸海域に 発生した赤潮

平成 21 年 3 月

三重県水産研究所

平成 20 年三重県沿岸海域に発生した赤潮の概要

[伊勢湾海域]

赤潮発生件数は 4 件で平年を下回った。赤潮発生日数は 81 日、赤潮発生延べ日数は 81 日でどちらも平年を上回った。継続日数別の発生件数は、5 日以内が 2 件、6～10 日が 1 件、31 日以上が 1 件であった。

赤潮構成種別の発生件数は *Skeletonema costatum* 等による珪藻の複合赤潮が 2 件と多く、その他はすべて 1 件で *N.scintillans* と *Thalassiosira* spp.による赤潮であった。漁業被害は発生しなかった。

[志摩度会海域]

赤潮発生件数は 8 件で平年を下回った。赤潮発生日数は 85 日、赤潮発生延べ日数は 124 日でどちらも平年を上回った。継続日数別の発生件数は、5 日以内が 5 件、11～30 日が 1 件、31 日以上が 2 件であった。

赤潮構成種別の発生件数は *Heterosigma akashiwo* 赤潮が 4 件と多く、その他はすべて 1 件で *Heterocapsa circularisquma* 赤潮、*Fibrocapsa japonica* 赤潮、*Chattonella* spp.赤潮、*Prorocentrum dentatum* 赤潮であった。漁業被害は発生しなかった。

[熊野灘北部海域]

赤潮発生件数は 5 件で平年を下回った。赤潮発生日数は 6 日、赤潮発生延べ日数は 6 日で平年を大きく下回った。継続日数別の発生件数は、5 日以内が 5 件であった。

赤潮構成種別の発生件数は *Heterosigma akashiwo* 赤潮が 3 件と多く、その他は *Noctiluca scintillans* 赤潮が 1 件、*Prorocentrum dentatum* 赤潮が 1 件であった。赤潮による漁業被害は発生しなかった。

1. 赤潮継続日数別赤潮発生件数・漁業被害を伴った件数

継続日数	伊勢湾		志摩度会		熊野灘北部		県全体	
	発生件数	漁業被害を伴った件数	発生件数	漁業被害を伴った件数	発生件数	漁業被害を伴った件数	発生件数	漁業被害を伴った件数
5日以内	2	0	5	0	5	0	12	0
6日～10日	1	0	0	0	0	0	1	0
11日～30日	0	0	1	0	0	0	1	0
31日以上	1	0	2	0	0	0	3	0
合計	4	0	8	0	5	0	17	0

2. 年別赤潮発生件数

年	伊勢湾	志摩度会	熊野灘北部	県全体
平成11	10	11	5	26
12	8	17	5	30
13	11	6	8	25
14	10	16	6	32
15	16	8	4	28
16	17	18	8	43
17	17	19	7	43
18	6	14	2	22
19	11	9	2	22
20	4	8	5	17
平均	11.0	12.6	5.2	28.8

3. 年別赤潮発生日数

年	伊勢湾	志摩度会	熊野灘北部	県全体
平成 11	51	139	70	169
12	70	101	59	159
13	27	34	55	92
14	109	117	63	170
15	53	71	24	114
16	67	87	28	130
17	84	75	8	140
18	44	51	2	97
19	89	58	15	124
20	81	85	6	172
平均	67.5	81.8	33.0	136.7

4. 年別赤潮発生延べ日数

年	伊勢湾	志摩度会	熊野灘北部	県全体
平成 11	55	173	91	319
12	71	216	85	372
13	35	42	56	133
14	114	132	64	310
15	55	76	24	155
16	70	128	28	226
17	88	81	8	177
18	44	54	2	100
19	90	62	15	166
20	81	124	6	211
平均	70.3	95.5	37.9	217.2

【注】

- 「1. 赤潮継続日数別赤潮発生件数・漁業被害を伴った件数」の「漁業被害を伴った件数」では、1件の赤潮発生で2件以上の漁業被害が発生した場合も1件とカウントした。
- 「1. 赤潮継続日数別赤潮発生・漁業被害を伴った件数」の発生件数、「2. 年別赤潮発生件数」の発生件数の計数方法については、「5. 三重県における赤潮被害発生状況」の【注】2、【注】3を参照のこと。
- 「3. 年別赤潮発生日数」では、同一海域（伊勢湾、志摩度会、熊野灘北部の各海域）内で同一日に複数件の発生がみられた場合、当該日を1日とカウントし、「4. 年別赤潮発生延べ日数」では当該件数でカウント（重複カウント）した。「県全体」の場合も同じ取扱いをした。

5. 三重県における赤潮発生状況（平成 20 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km ²)	発生水深 (m)	最高細胞数 (cells/ml)	漁業被害の有無 (被害整理番号)	情報源
1 (I-1)	12.25- 1.10	伊勢湾 (南西部)	<i>Noctiluca scintillans</i>	12.25 に伊勢湾南部の津市から伊勢市沖にかけて <i>Noctiluca scintillans</i> による赤潮が確認され、1.10 まで継続した。	不明	0	不明	無	はやたか 第 4 管区海上保安部
2 (S-1)	4.14 - 4.16	志摩度会 (古和浦)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	4.14 に志摩度会海域の古和浦で <i>Heterosigma akashiwo</i> による赤潮が発生した。最高細胞数は 4.16 の古和浦 0m 層の 95,000 cells/ml であった。	不明	0	H.a. 95,000	無	伊勢農林水産商工環境事務所水産室 水産研究部
3 (K-1)	4.15	熊野灘北部 (尾鷲市～熊野市沖合)	<i>Noctiluca scintillans</i>	4.15 に熊野灘北部海域の尾鷲市か熊野市の沖合の潮目で <i>Noctiluca scintillans</i> による赤潮が確認された。最高細胞数は熊野市二木島沖 0m 層の 52cells/ml であった。	不明	0	N.a. 52	無	あさま 水産研究所
4 (I-2)	5.1 - 7.3	伊勢湾 (全域)	<i>Chaetoceros</i> spp. <i>Skeletonema costatum</i>	5.1 に伊勢湾全域で <i>Chaetoceros</i> spp. と <i>Skeletonema costatum</i> の複合赤潮が確認された。最高細胞数は 6.6 の四日市港前 0m 層の <i>C.spp.</i> 103,050cells/ml, <i>S.costatum</i> 32,800 cells/ml であった。	不明	0	C.spp. 103,050 S.c. 32,800	無	あさま 水産研究所 しらなみ
5 (S-2)	5.19	志摩度会 (英虞湾)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	5.19 に英虞湾鵜方浜において <i>Heterosigma akashiwo</i> による赤潮が確認された。最高細胞数は鵜方浜 0.5m 層の 43,600 cells/ml であった。	不明	0.5	H.a. 43,600	無	水産研究所
6 (K-2)	5.26	熊野灘北部 (錦)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	5.26 に大紀町錦において <i>Heterosigma akashiwo</i> による赤潮が確認された。最高細胞数は錦 0m 層の 21,450 cells/ml であった。	不明	0	H.a. 21,450	無	水産資源室 水産研究所
7 (S-3)	6.11	志摩度会 (五ヶ所湾)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	6.11 に五ヶ所湾において <i>Heterosigma akashiwo</i> による赤潮が確認された。最高細胞数は五ヶ所浦 0m 層の 28,000 cells/ml であった。	不明	0.5	H.a. 28,000	無	南伊勢町南勢種苗センター

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km ²)	発生水深 (m)	最高細胞数 (cells/ml)	漁業被害の有無 (被害整理番号)	情報源
(S-4)	6.16	志摩度会 (阿曾浦)	<i>Fibrocapsa japonica</i>	6.16 に南伊勢町阿曾浦において <i>Fibrocapsa japonica</i> による赤潮が確認された。最高細胞数は阿曾浦0m層の10,150 cells/mlであった。	不明	0	F.j. 10,150	無	南伊勢町南島種苗センター
9 (K-3)	6.17 — 6.18	熊野灘北部 (尾鷲湾)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	6.17 から 6.18 にかけて尾鷲湾において <i>Heterosigma akashiwo</i> による赤潮が確認された。最高細胞数は 6.18 の古里漁場 0m 層の 10,390 cells/ml であった。	不明	0	H.a. 10,390	無	尾鷲水産研究室
10 (K-4)	6.26	熊野灘北部 (引本湾)	<i>Prorocentrum dentatum</i>	6.26 に引本湾において <i>Prorocentrum dentatum</i> による赤潮が確認された。最高細胞数は長浜漁場 0 m 層の 8,200cells/ml であった。	不明	0-2	P.d. 8,200	無	尾鷲水産研究室 尾鷲農林水産環境事務所
11 (S-5)	6.30 — 8.18	志摩度会 (英虞湾)	<i>Heterocapsa circularisquma</i>	6.30 に英虞湾において確認された <i>Heterocapsa circularisquma</i> による赤潮は 8.18 に終息した。最高細胞数は 8.4 の宮ヶ崎漁場 4.6m層の 6,000cells/ml であった。	不明	2-8.7	H.c. 6,000	無	水産研究所 英虞湾内真珠養殖組合
12 (S-6)	7.4 — 8.11	志摩度会 (鳥羽市-南伊勢町)	<i>Chattonella</i> spp.	7.4 に安乗港内において確認されその後鳥羽市桃取水道から南伊勢町阿曾浦にかけての沿岸域で発生していた <i>Chattonella</i> spp.による赤潮は 8.11 に終息した。優占種は <i>C.globosa</i> でその他に <i>C.ovata</i> , <i>C.marina</i> , <i>C.antiqua</i> が混在していた。最高細胞数は 7.31 の阿曾浦(道方)3m層の 1,500 cells/ml であった。	不明	0-20	C.spp. 1,500	無	水産研究所 鳥羽市水産研究所 南伊勢町南勢種苗センター 南伊勢町南島種苗センター
13 (S-7)	9.17	志摩度会 (英虞湾)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	9.17 に英虞湾において <i>Heterosigma akashiwo</i> による赤潮が確認された。最高細胞数は 9.17 の立神浦漁場 0.3 m 層の 23,000cells/ml であった。	不明	0.3	H.a. 23,000	無	水産研究所 立神真珠養殖組合
14 (K-5)	9.29	熊野灘北部 (尾鷲湾)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	9.29 に尾鷲湾において <i>Heterosigma akashiwo</i> による赤潮が確認された。最高細胞	不明	0	H.a. 9,485	無	尾鷲水産研究室

整理番号	発生時期	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km ²)	発生水深 (m)	最高細胞数 (cells/ml)	漁業被害の有無 (被害整理番号)	情報源
				数は 9.29 の古里漁場 0m 層の 9,485cells/ml であった					
15 (I-3)	10.5 — 10.9	伊勢湾 (西部)	<i>Chaetoceros</i> spp. <i>Skeletonema</i> <i>costatum</i> <i>Thalassiosira</i> spp.	10.5 から 10.9 にかけて三重県沿岸域で珪藻の複合赤潮が確認された。最高細胞数は 10.8 の城南地先 0m 層の <i>Skeletonema costatum</i> 4,000cells/ml, <i>Chaetoceros</i> spp. 2,000cells/ml, <i>Thalassiosira</i> spp. 2,000cells/ml であった。	不明	0	S.c. 4,000 C.spp. 2,000 T.spp. 8,200	無	三重県漁連 鈴鹿水産研究室
16 (S-8)	10.14 — 11.10	志摩度会 (英虞湾)	<i>Prorocentrum</i> <i>dentatum</i>	10.14 に英虞湾において確認された <i>Prorocentrum dentatum</i> による赤潮は 11.10 に終息した。最高細胞数は 11.5 の立神漁場 0.5m 層の 17,000cells/ml であった。	不明	0.5-5	P.d. 17,000	無	水産研究所
17 (I-4)	10.20 — 11.21	伊勢湾 (北西部)	<i>Thalassiosira</i> spp.	10.20 から 10.21 にかけて木曾岬から城南地先において、 <i>Thalassiosira</i> spp. による赤潮が確認された。最高細胞数は 10.20 の木曾岬地先 0m 層の 8,200cells/ml であった。	不明	0	T.spp. 8,200	無	三重県漁連 鈴鹿水産研究室

【備考】

Heterocapsa circularisquma は 100cells/ml 以上を赤潮として扱った。

【注】

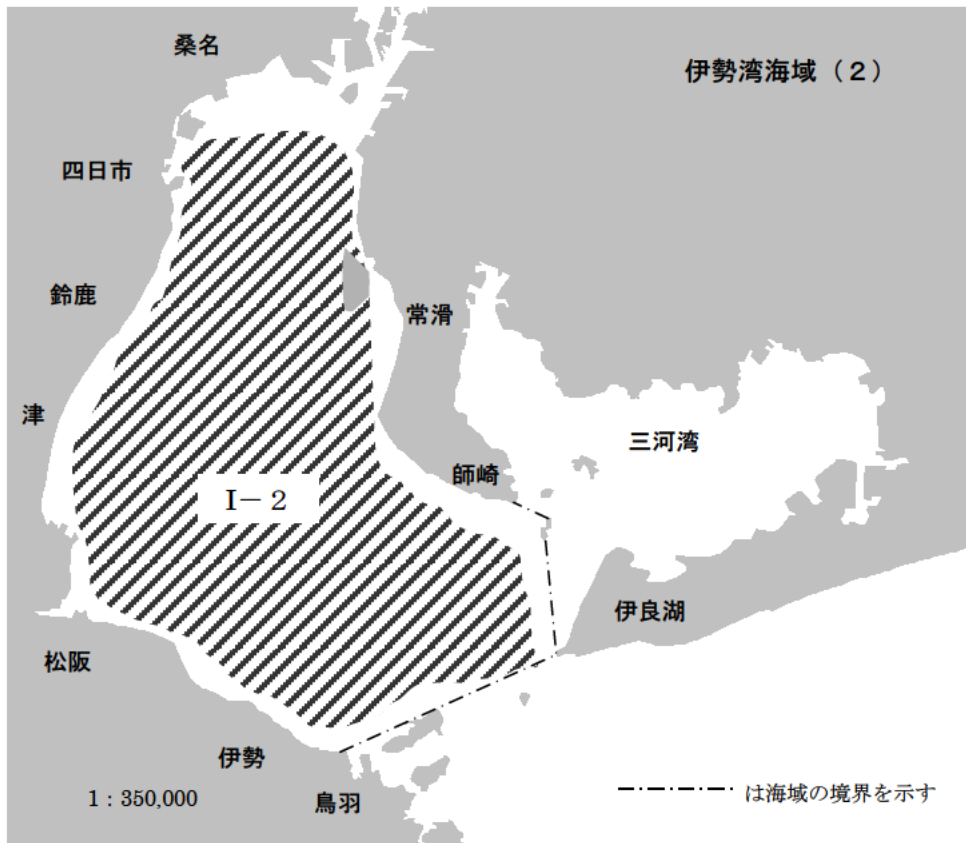
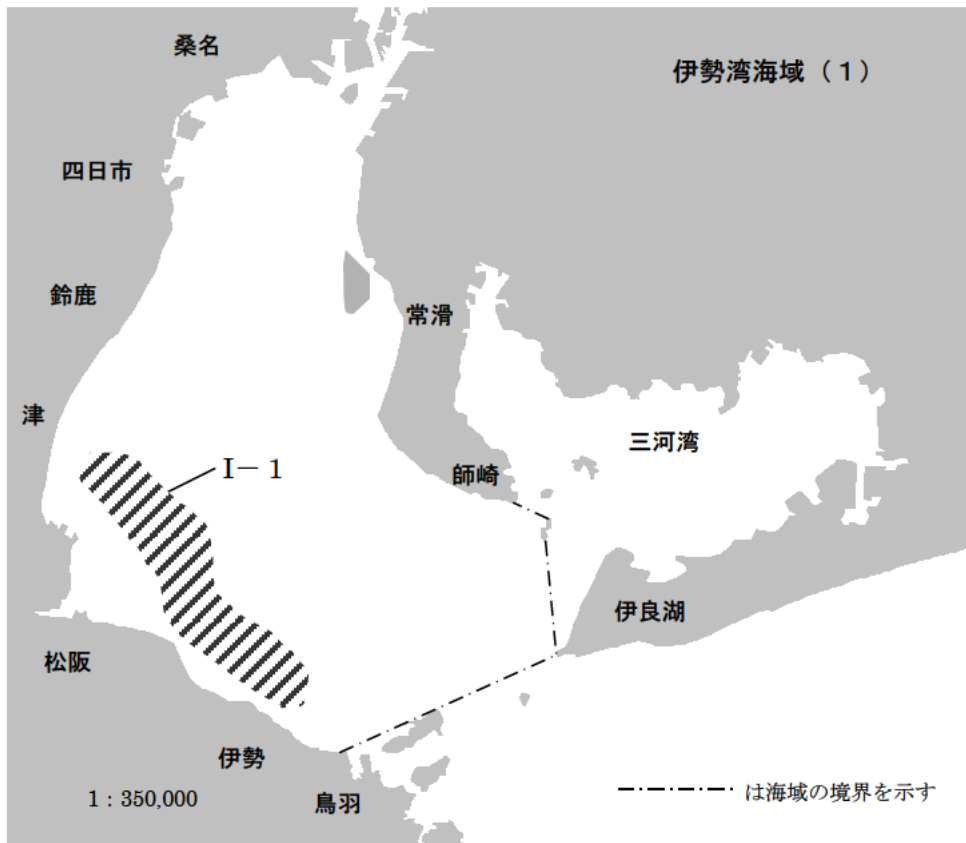
- 「整理番号」は、発生時期の順に一連番号を記載し、() 内には発生海域毎に一連番号を記載した。(I、S、K はそれぞれ伊勢湾、志摩度会、熊野灘北部の各海域を示す。)
- 2 あるいは 3 海域にまたがって発生した場合は、各海域のそれぞれに発生したものとして扱った。従って、例えば 2 つの海域にまたがって発生した場合は、1 つの発生に対して 2 つの整理番号を与え、発生件数は 2 件とカウントした。
- 「発生時期」は、発生が確認された日から消滅日までを記載することを基本としたが、同一海域で発生、消滅（一時的な細胞数の減少）を繰り返したものについては、最初の発生から最後の発生まで（完全な赤潮の終息まで）を 1 単位として記載した。
- 水色表示の () 内は、赤潮情報伝達事業、赤潮調査事業水色カードの番号で示した。

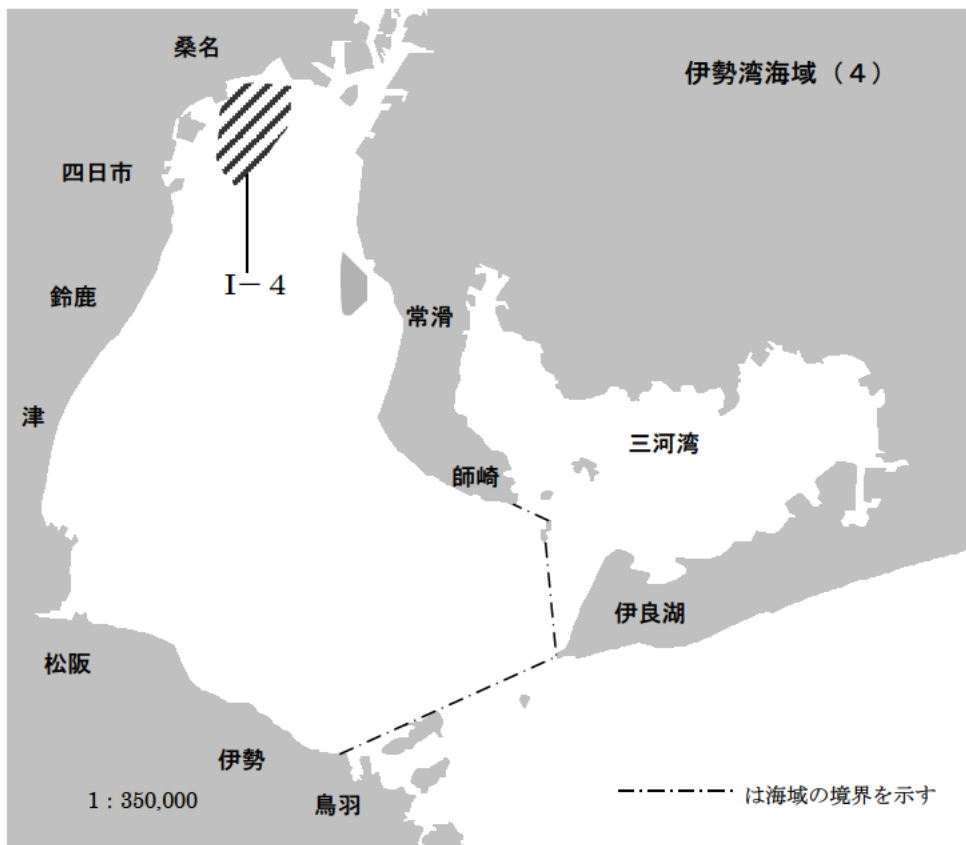
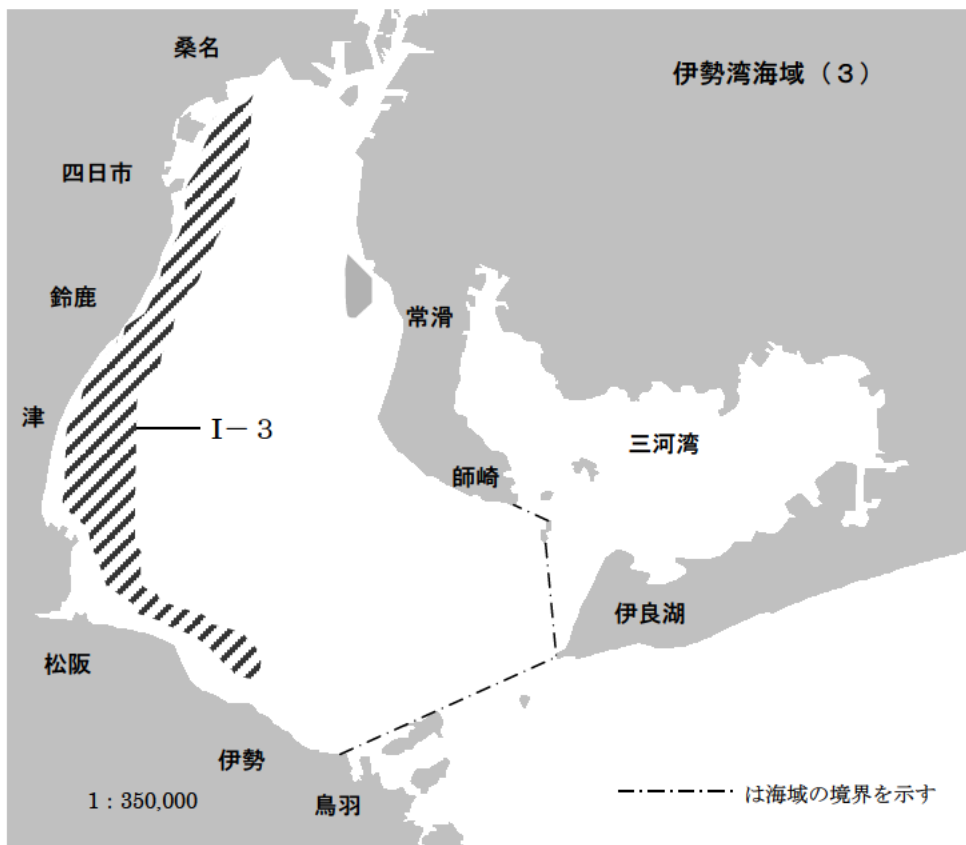
6. 赤潮による漁業被害状況（平成 20 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

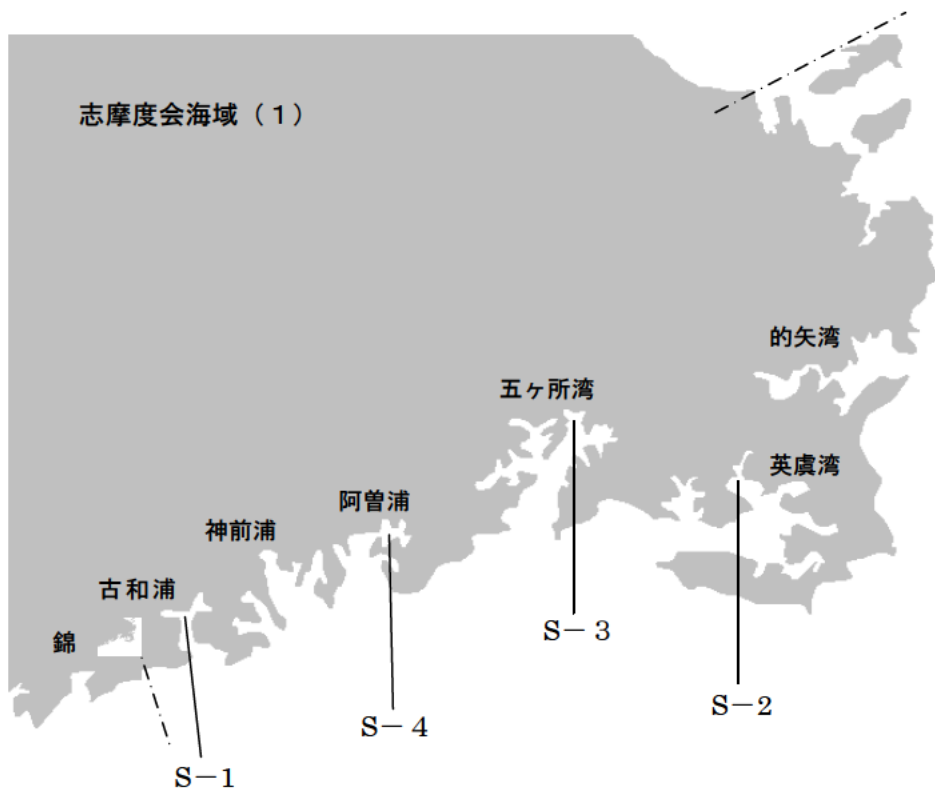
整理 番号	被害 時期	被害発生 場所	赤潮構成種名	養殖魚介類				漁獲物又は蓄養魚介類				天然魚介類			
				魚種	被害内容	被害尾数 (尾)	被害金額 (千円)	漁業種類	魚種	被害内容	被害尾数 (尾)	被害金額 (千円)	魚種	被害内容	被害量

【備考】 漁業被害は発生しなかった。

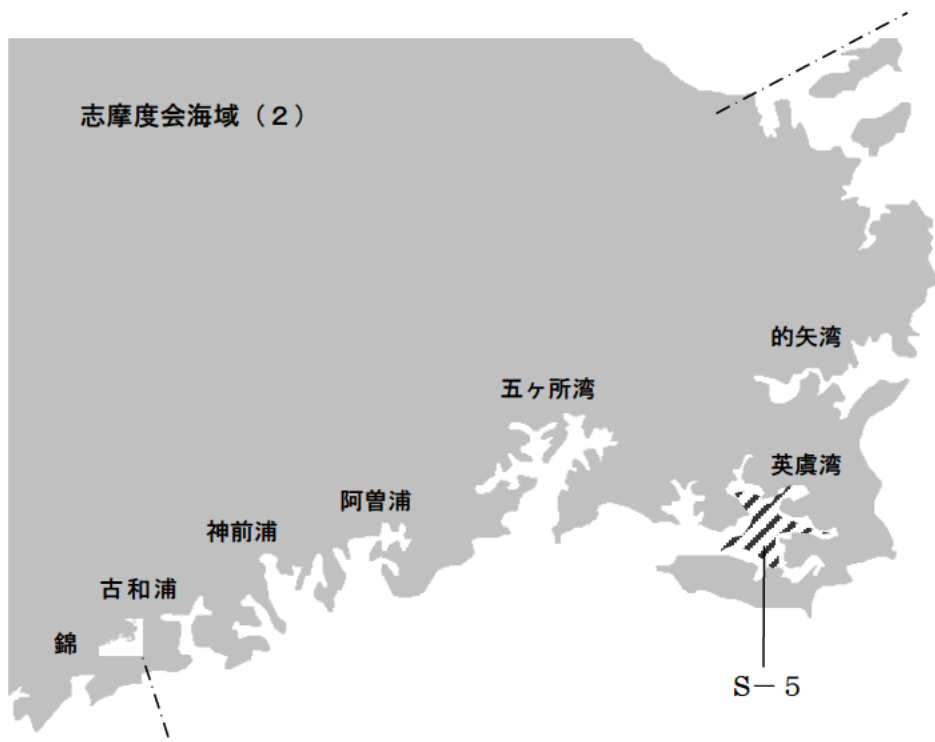
7. 赤潮発生海域図







----- は海域の境界を示す



----- は海域の境界を示す



----- は海域の境界を示す



----- は海域の境界を示す

